

「顔の見える関係」から「手をつなぎ合える関係」をめざして

# ことう地域チームケア研究会 たより

令和5年3月31日発行

つながろう 話そう  
ウェブ de 研究会

## 第60回 ことう地域チームケア研究会を開催しました

◆開催日時: 令和5年3月9日(木) 18:30~20:30

◆参加者: 53名(医療関係13名、福祉関係21名、行政・その他19名)



## 事例検討会

【担当世話人団体】  
彦根愛知犬上介護支援専門員連絡協議会  
市町地域包括支援センター

仮想事例: 和田桃枝さん 77歳

「思い出の多いこの家で暮らし続けたい～」



今回のねらい

- ①互いの専門性や視点・考え方等、違いを理解し合いましょう。
- ②その人の望む暮らしを支えるために、それぞれの役割やチームケアについて考えましょう。

今回はできるだけ同じ職種が集まるようにグループ分けをしました。グループでの意見交換のあと、各グループでの意見を全体で共有しながら事例の理解を深め、支援について考えていきました。

### グループワーク①

- 桃枝さんの事例を聞いて、どんなことが気になりましたか。
- 事例を理解する上で、もう少し知りたい情報はどのようなことですか。

### 全体共有

支援チームの  
「目線合わせ」を  
していきましょう。

### グループワーク②

- 解決すべき課題としてどのようなことが考えられますか。
- 桃枝さんの願いを叶えるために、どのような支援ができるとよいでしょうか。
- ※自身の職種(立場)としてできること、他職種(業種)と協働でできること、地域の中でできること 等

### オンラインは4グループ

- 1G 【歯科グループ】(歯科医師・歯科衛生士)
- 2G 【多職種ミックスグループ】  
リハ職・管理栄養士・訪問看護・MSW・  
行政(保健師・薬剤師)
- 3G 【ケアマネジャー/介護職グループ】
- 4G 【地域包括支援センターグループ】



### くすのき会場 【多職種ミックスグループ×2】

医師・訪問看護師・介護福祉士・ケアマネ・地域包括  
行政(地域包括・保健師)



◆多職種となったグループもありましたが、今回、職種による視点の違いや見立ての違いがよりよくわかり、新たな気づきも得られたとの感想が寄せられました。◆一つの事例に対して様々な職種や立場で支援策を考える機会となりました。妄想?も膨らませながら、楽しく話が盛り上がったグループもありました。◆今回は、約11の職種の方による事例検討会となりました。こんなに多くの職種による事例検討会はとても貴重な機会だと思いました。◆一人の利用者さんに対して様々な専門職・関係者がかかわること、情報を共有し合い、意見交換しながらチームケアを実践していくことの大切さ、必要性をあらためて感じました。



## こんなこと思いました

**(介護福祉士)** ◆いろいろな視点や方向から一人の方の対応を考える機会があってよかった。

**(作業療法士)** ◆ケアマネグループがどのように事例に対して(妄想されて)話が盛り上がったのか気になりました

**(保健師)**

◆同じ事例を聞いても職種によって視点や意見が違い、これが専門職か！！と実感。それぞれの強みを生かしてアセスメントして、関わる人たちが共有できるとネットワークが広がると思うので、普段から気安く話せる関係づくりが大切だと感じた。このような形での事例検討会、「自分の職種として」というところと「他職種と」というところを意識でき、学びが深まった。

◆様々な立場から意見が出され勉強になりました。ご本人の思いを尊重しながらできる支援を優先順位も考えながらやっていく必要性を感じた。

◆専門職によって視点が違うこと、今回のグループワークでさらに感じた。専門職のチームを組むことの必要性を実感しました。

**(医療ソーシャルワーカー)** ◆職種によって見る視点が違うことがよく理解できました。

**(地域包括支援センター)**

◆今回は同職種でのグループワークだったが、いつもより専門職の意見に深みがあり勉強になった。

**(主任介護支援専門員)**

◆今回の事例は思い出深い事例でしたし、おそらく自分が一番理解している事例なのではないかと考えていましたが、それでもこのような多職種、他の方の考えを聴くと、まだまだ気づけることがありました。そういう点で、やはり多職種連携のメリットや大切さはもちろんですが、自分ひとりで考えるだけでは足りない点がいくらでもある、ということにあらためて気づくことができました。その観点から、地域ケア会議など、とても有用なものであるということもあらためて実感しました。

**(社会福祉士)** ◆職種による思考や検討するポイントを色々知れて勉強になる。

**(介護支援専門員)**

◆各方面の専門家のアセスメントの視点を知ることができ勉強になりました。

◆専門的な見地から一つの事例を検証すると、多角的に対象者を見られて良い勉強になった。ケアマネのグループは対象者の寂しさや、生きる楽しみにアプローチしていたことも、特徴的に感じた。

◆専門職による視点の違いがわかり、アセスメントに役立ちます

◆各専門職ごとのグループ分けで、全体共有時にそれぞれの目線からの意見が聞けた為、多職種共同での支援の重要性を改めて感じる事ができました。

◆興味のある内容を開催していただいております。

◆異業種で一つのテーマを話し合うことはなかなか無いことなので、貴重に感じています。

◆同じグループに医療職の方が多くてとても勉強になりました。坐骨神経痛や糖尿病のアセスメント、痛みのコントロール、予後の管理等を教えてくださいました。

◆いろいろな意見が出ましたが、最後にまとめができるとうよかった。

### 研究会に関してのご意見

◆コロナ禍以前のように集合形式をメインの形にさせていただけたらな、と思います。以前であれば、普段話す機会が持てない方でも、会場で会って話ができたりしました。オンラインはオンラインの良さがありますが、このように話したい人とちょっと話をする機会ができるということであれば、やはり集合形式の方がメリットあるのだと思います。ご検討よろしくお願いたします。

**たくさんのご意見、ご感想ありがとうございました。**

ホームページ「在宅医療福祉情報の森」で次回研究会の情報・過去の開催内容をご覧ください。

次回は、5月に開催予定です。

在宅医療福祉情報の森



で検索。

**【お問い合わせ】 ことう地域チームケア研究会事務局**

◆ 一社彦根愛知犬上介護保険事業者協議会 (TEL 49-2455 E-mail: info@gen-ai-ken-kaigo.jp)

◆ 彦根市高齢福祉推進課 (TEL 24-0828)